

十勝連峰 富良野岳～三峰山～上富良野岳

日程 H30 年 7 月 14 日～16 日

ルート 十勝連邦縦走路ルート

宿泊 小屋

山行形式 夏尾根道周回登山

参加者 CL 藤木、SL 渡辺、酒井、太田、門間、鳴原、巢山、宇田

7 月 14 日

15:15 幌別郵便局前集合→苫小牧にて門間合流→17:30 南千歳駅にて巢山合流 千歳東から占冠まで道東道を経由し 17:30 に日高研修所に到着。

日高道の駅のセーコマで購入した総菜を広げて宴開始。なんと言っても今回は北日高山脈幌尻岳を予定していたが、出発二日前にチロロ林道が崩壊していることが判明し、急遽富良野岳縦走へと変更になった。これを受けてガッカリする者あり、ホッとする者あり様々な感情が渦巻いていた。しかしここに来て再びリーダー



より登山計画の変更の知らせを受ける。翌日の天候を考慮し、上ホロカメトックのテン泊ではなく麓郷にある富良野山岳会の管理小屋を借りることとなった。テン泊でなくなりホッとする O さん。明日に備え早めに就寝するも部屋中に大量の小さな虫が飛び交い顔にタオルを巻いて寝たためとてつもなく寝苦しい夜であった。

7 月 15 日

4:30 起床→5:30 朝食→6:30 日高研修所出発→8:30 麓郷原始ヶ原ニングルの森到着 私たちを待っていたのは富良野山岳会の理事長と奇麗で立派な山小屋であった。当初予定では原始ヶ原散策予定であったが天候不順のため中止。9:30 6 名が水を汲みに天使の泉へ出発



私と M さんは火の番で山小屋に残る。10:55 激しい雨の中、水汲み隊帰還 以後この日 1 日山小屋で過ごすこととなる。11:30 昼食 15:30 早めの夕食&交流会で絆を深める。夕方には雨も止み明るくなる。明日の富良野岳の天気は曇り予報。明日の富良野岳登頂を願い 8:00 就寝 夜中に何度かゲリラ豪雨に襲われ、更に土砂崩れかと思うような揺れがあり、西日本豪雨を彷彿させる恐怖に襲われた。

7 月 16 日

4:00 起床→5:00 朝食 この日の天気は曇りであったが富良野岳山頂はかなりの強風のため残念ながら断念することとなった。まずはここから脱出することが先決である。荷物をま

とめ清掃を済ませお世話になったニングルの森を 6:00 出発
美瑛まで車を流し 7:30 フラヌイ温泉で M さんを下ろして我々
は岐路へと付く。

M さん、九州から来たのに一緒に山に登れず残念だったけど、
相変わらずで楽しかったな。必ずや今度は一緒に登ろうね。
重たい空の富良野を後にした我々であったが、山部を過ぎた辺
りから空が明るくなり金山はまさかの快晴であった。「わあー
どこかの山に登りたい！」2号車で騒いでいると願いが通じた
のか1号車より電話が入る。「0の山の登山道を偵察に行く」
とのこと！ひゃっほー♪車はかなやま湖キャンプ場へと向かう
2年前に登ったことがある K さんのナビで登山道入り口へ進む



車でなかなかの悪路をかなり上まで上がり、それらしい場所へ車を置いて偵察後、協議の
末!?決行！ 9:30 駐車場出発 しばらく入山者が居なかったようで登山道はかなりの不明
瞭に加え、倒木が道を塞いで更にわからなくなっている。K さんのログを頼りに笹を掻き
分け時に迷いながら進む。あっという間に着くという K さんの言葉とは裏腹に想定外のな
かなかの大冒険である。しかしそれが返ってワクワク感を増幅させてくれた。10:17 0の
山 山頂到着 山頂からはかなやま湖が一望でき、更
に1、2、3の山への縦走路もあった。こんな山はそう
そう来ることができないので大変貴重な経験ができ感謝である。10:54 駐車場着 装備を下ろし荷物を片付け
車に乗り込んで、さあ出発というところでハプニング
が発生。1号車がなかなか出発しない。そして車から
全員降りてきて服を脱ぎ出した。一体どうしたのかと
思ったら、なんと理事長の体にダニが5匹もついてい
たとのこと。1号車はパニックになっていた。2号車
の我々には1匹も付いていない。どうやら先頭で登っ
た理事長が我々の分のダニを全て引き受けてくれたよ
うである。



下山後、湯ノ沢温泉で長らくお預けだった温泉に浸かり 15:30 苫小牧 S ちゃん宅前で解
散式→随時帰宅

今回の山行は大雨の影響で林道が崩壊していたり、雨や強風のため変更、変更の連続で
思うように山に登ることができず正直非常に残念であった。しかしそれに代わる貴重な経
験ができたのも事実である。今回の参加者一人ひとりに心から感謝するとともに、いつか
必ずや幌尻岳へ登るぞー！！と心に誓った。

記録 宇田